

東北新幹線なら
東京⇄郡山 80分
仙台⇄郡山 40分

福島県 県中地域

福島県は、東から浜通り、中通り、会津地方と
3つ地域に分け、更に中通りを北から3つの
地域に分けた、真ん中の地域が県中になります。

県中地域定住・二地域居住推進連絡協議会

事務局／福島県県中地方振興局 企画商工部
〒963-8540 福島県郡山市麓山1-1-1
TEL 024-935-1323



ふくしま移住計画 ウェブサイト
<https://fukushima-ijyu.com/>



提供：郡山市
photo：郡山駅前周辺

ほ
ど
よ
い
イ
ナ
カ
が、
住
み
や
す
い。
。

福島ど真ん中移住ガイド

ふくしま 移住計画

vol.
5



photo：青松浜（郡山市湖南町）

移住までのステップ



step1: 移住の目的を考えよう

何を求めて移住するのかによって選ぶ地域は大きく変わります。農業をしたい、環境の良い場所に住みたい、子どもの教育を考えて…など。どんな地域でどんな生活を送りたいのか、よく考えてみるのが大切です。

step2: 家族・パートナーに相談しよう

移住の目的やメリット・デメリットなどを家族やパートナーとよく相談しましょう。また、相談することによって移住後の生活スタイルを具体的にイメージすることができます。



step3: 情報を集めて目的に合う地域を選ぼう

移住の目的が決まったら、交通の便や気候、地域性、仕事や子どもの教育など、様々な条件を考慮して、いくつかの地域を重点的に調べましょう。Webサイトはもちろん、移住セミナーなどに参加してみるのもおすすめです。

step4: 現地まで実際に行ってみよう

気になる地域は実際に目で見ると一番。体験ツアーや移住体験住宅を利用できるところもあります。現地の雰囲気や生活環境を体験し、自分の想像とかけ離れていないか、確認しましょう。



step5: 移住先で仕事を探そう

生活していくうえで、まずは仕事が必要です。移住相談窓口やハローワークに問い合わせるのもよいでしょう。また、農業を始めたいなら、各地域の就農相談窓口などに相談しましょう。

step6: 住む場所を探そう

住みたい地域で目的に合った住居を探しましょう。中古住宅は補修が必要な場合もあるので、必ず現地確認を。



step7: さあ、いよいよ移住!

ご近所にあいさつしたり、地域の行事に参加したりして、地域との交流を深めていきましょう。

移住に興味があるけど、どこに相談したらいいかわからない…

ふくしまにおまかせください!

私は、県中地域の小野町の在住で、長年、移住希望者と地域の人々の橋渡し役を担う「福島ふるさと暮らし案内人」として活動してきました。移住には不安がつきもの。そんなときに親身に相談に乗ってくれるところがあると嬉しいし、心強いですよね。移住後の友達づくり・仲間づくりのサポートにも力を入れていますので、ぜひお気軽にご相談ください。

福島県県中地方振興局：TEL 024-935-1323

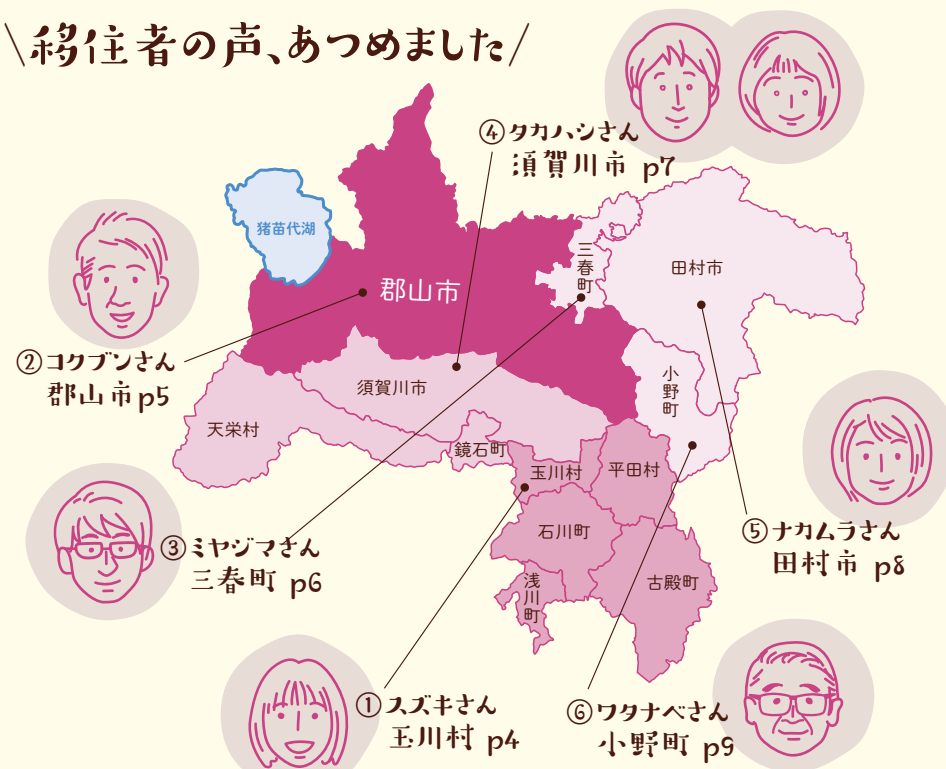


福島県移住
コーディネーター
(県中地域担当)
よもぎた まもる
蓬田 守 です。

蓬田さんのFacebook



移住者の声、あつめました



移住者インタビューGO!▶

vol.5

／ふくしま人、かく語りき。／

移住者インタビュー

玉川村を全国へ!!

古民家を拠点に、イベント企画・情報発信をしていきたい。

鈴木 愛子さん(玉川村)

福島県玉川村出身の鈴木さんは、神奈川県からUターンし、2020年1月に玉川村の地域おこし協力隊に就任しました。現在は、すま Plaza 交流センターを活動拠点にイベントの企画・運営、情報発信を行っています。

Q移住してこれたきっかけを教えてください。

もともと私は玉川村出身で、高校卒業後に神奈川県に住んでいました。関東圏、県外の人は玉川村を知っている人が少ないので、玉川村を広められるような事をしたいなと思っていました。もともと地域おこし協力隊は知っていたので、玉川村で募集しているか調べ、応募して地域おこし協力隊となり、Uターンで移住しました。

Q現在、協力隊ではどんな仕事をしているのですか？

新聞やSNSで村内のお店の紹介などの情報発信をしています。

イベントに関しては、幼稚園生から小学生の子どもたちを対象にしたアートイベントをやっています。

また、古民家をお借りして、日本大学の建築学科の学生さんに御協力をいただいて、リノベーションを進めています。リノベーション後は古民家でアート教室や作品展示などのアートのスペースと地域交流としてのコミュニティスペースとして活用していきたいと考えています。

第25
ふくしま人

Qイベントを始めたきっかけは？

私がアートとか絵を描くことが得意ということもあったんですけど、小さい子ども向けのアートのワークショップやイベントが、この辺にないので、あったらいいなと思い始めました。

Q移住する際、不安というものはなかったですか。

地域おこし協力隊の存在は知っていたんですけど、何をやればいんだろうかという不安はありました。入ってすぐコロナが蔓延して、数か月ぐらいはほぼ活動があまりできない状況でもありました。



QUターンして良かったなと思うことは？

神奈川県にいたときは、住宅街にアパートを借りていたのですが、そうすると自然がない中で、息苦しく、ちょっと暮らしづらかったなというのはありました。玉川村に戻って、自然がたくさんあるので帰ってきてよかったなと思います。

Q今後の仕事やプライベートで、どんなことをしていきたいか、今後の目標、やりたいことはありますか？

今やっているイベントを、習い事みたいに週に何回かできるような環境にできたらと考えています。

暮らしに関しては、古民家で暮らしてみたいとずっと思っていました。今回リノベーションをしますが、1階はアート教室やコミュニティスペースなど人々が集まる場所、2階は住居スペースを考えています。その古民家から情報発信をしていけたらいいなと考えています。

熱気に満ちた玉川村で 自転車を通じて魅力を発信!!

國分 洋平さん(郡山市)

神奈川県出身の國分さんは、2018年に結婚を機に郡山市へ移住しました。現在は、玉川村から委託を受け、マウンテンバイクコースの運営や自転車による地域活性化の取組を進めています。

第26
ふくしま人

Q. 移住のきっかけを教えてください。

結婚の際に、住みやすさや、地元が好きという奥さんの意向を尊重して決めました。婿ターンです。福島のお米や日本酒がすごく美味しくて、食べ物も好きなので、それも魅力の一つでした。

Q移住前の仕事など、これまでの経緯を教えてください。

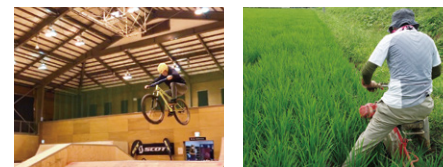
自転車が好きで学生時代、自転車に乗って旅行をしていました。就職は自転車の国内大手の小売業に就職して、メーカー兼卸の会社に転職しました。自転車業界にはずっといたので、接客や販売、修理はもちろんですし、横のつながりもできました。

Q現在の仕事はどんな仕事ですか？

家業として田んぼと造園業に加え、玉川村から事業委託を受けて、レンタサイクルの用意やガイドツアー、MTBのコースを作ることをやっています。あとはオリンピックで一躍認知度が高くなったスケボーとかBMX、自転車で遊べる施設(スケボーパーク)を体育館の中に作って、今は実証実験を行っているところです。福島空港や、その近隣の山の中にトレイルのコースをつくらせて、自転車の愛好家とか観光客が楽しんでもらえるようなコンテンツを作っています。

Q移住する際に不安だったことはありますか？

結構楽天的な性格なので、ない訳じゃなかったんですけど。いろんな人に助けってもらったおかげで、不安はある程度解消した状態で来ることができました。不安は動けば解消されましたし、暇がないぐらい最初か



ら動き回りました。冬場は田んぼもないし、造園もなかったもので、冬場を何とかしなきゃというのが自転車とマッチして、今の自転車事業につながっていったのかなと思います。

Q移住して良かったって思うことありますか？

やはり自然が豊かで、食べ物やお酒が美味しくて、あとは飲食店のレベルが高い。コスパもいい!郡山でも海鮮が美味しいのにはびっくり。あと日本酒の特色も豊富。昔からつくられている郷土食に合う印象です。地域や酒蔵によってそれぞれ味が違うので、すごく贅沢な晩御飯をいただけて幸せです。

Q今後、仕事とかプライベートでどんなことをしていきたいですか?今後の目標、今後やりたいことは?

自転車事業を行っている玉川村は自然も豊かで居心地がいいです。村民の好奇心も強く、熱気に満ちた事業者が集う魅力溢れる場所です。そんな事業者と一緒に、村内、県内、県外、海外、いろんな人に「玉川村」を知ってもらえるような、コンテンツをどんどんつくって発信していきたいなと思っています。そして玉川村の魅力を知って体験して欲しいと思っています。

Qこれから地方で暮らしたい人、移住を考えている人にアドバイスは?

人との付き合いが大事です。自分でやりたいことをやる、やれるのは、自分の力は微々たるもの。というわけで、人との距離が短く、寄り集まれば密度が濃いのが私の知る福島県。移住後、1年間は「誘いは断らない」をモットーに色々な方と知り合うことができました。そうやって知り合った人が起点となり、多くの仲間ができて、周りの人が協力してくれたおかげで、自分がやりたいことをこうやって出来ていると感じています。

安心して食べられる 美味しいイチゴの栽培を。

宮島 清人さん(三春町)

長野県出身の宮島さんは、2020年新規就農のため三春町に移住しました。経営するfarm.舞木では、農薬を極力使用せずにイチゴ栽培を行っています。

Qこれまでの経緯について教えてください。

栃木県の大学を卒業してから、ゴルフ場の管理会社につとめて、6年ほど全国ゴルフ場を転々としていました。しかし、芝の管理は収穫物が得られず、自分のやっている仕事が生計に繋がっていない実感を痛感し、収穫物を得られて昔から興味があった農業の世界へ飛び込みました。そして農業の勉強をするため、山梨の会社で働くことにしました。

Q移住のきっかけを教えてください。

山梨の会社で働いている際に、このまま会社で農業をやっていくか、それとも独立して自分のやりたい農業をやるのか悩みましたが、自分の考えている農業を形にしたいと思い、独立を決意しました。独立するにあたり、農地を探している際に親戚のご縁をいただき、農地をお借りすることになり移住することになりました。

Q三春町で農業をしようと思った決め手は何ですか？

お借りできた農地の目の前の家もセットで借りることができたこと、農地周りに人が多く直販できそうなこと、お借りした場所が三春町と郡山市の境目で消費地(郡山市)がすぐ近くにあることです。あとは、周りでいちごを栽培している人が少ないということもありました。

Q移住をする際に不安だったことは何ですか？

人間関係等の不安はなかったですが、いちご栽培に関する不安はありました。特に、冬の寒さはどの程度なのか不安でした。温度管理、暖房をどの程度使う必要があるのかなど。

Q今後、仕事やプライベートでどんなことをしていきたいですか？

今までは大きく広げていくことを考えていましたが、

第27
ふいしまん



最近では小規模でも良いと考えるようになりました。小規模で高品質なものを作っていきたいです。小規模でそれなりに生計を立てつつ、流れに合わせて広げることできるよう準備をしておく。県内の他の地域にもまだ行けてないですが、オフシーズンは農家を含め、いろんな所を尋ねてみたいです。

Q移住して良かったことは？

自分に裁量があり、自分で全部を決められること、時間が自由なこと(出勤時間等の縛りが無い)です。考えてから実行に移すまでのスピード感も魅力のひとつです。

Qこれから移住を考えている人へのアドバイスは？

僕の場合は、明確なやるべきことがありませんでしたが、特に何もなくて、ただ漠然と田舎に住みたいだけだと見えていないことが絶対にあるので大変なことが出てくると思います。その場所でするべきことや子供のためなど、何か住む原動力があれば移住はおすすめです。そうでないと最初は楽しいですが、だんだんと慣れた時に便利な方に戻りたくなると思います。完全移住でなく、二拠点生活も良いと思います。大都市で仕事を持ちつつ、田舎にも暮らすというのが良いと思います。



まちなかライターとして 須賀川の魅力発信！！

高橋 夏子(須賀川市)



第28
ふいしまん

岩手県出身の高橋さんは、夫の実家のある須賀川市に2020年3月に移住しました。デザイン業に加え、移住を機にフリーライターとして須賀川市の魅力発信を行っています。

Q移住前も含めてこれまでの経緯を教えてください。

私は岩手県盛岡市出身で、短大を卒業してから地元で3年ぐらい働いていました。スキルアップしたいという思いもあったので、上京してデザイン関係の仕事をしていました。東京で働いているときに、高校時代の友人の紹介で夫と知り合い結婚し、埼玉県和光市に住んでいました。

Q移住のきっかけを教えてください。

埼玉で通っていた保育園が3歳までのクラスしかないということで、次に入る保育園を探さなきゃいけないタイミングでした。夫が須賀川市出身で「いつかは地元に戻りたい」と言っていたのも大きかったです。年をとってから田舎に移住となると、仕事や生活の面で心配だし、ちょうどいい機会だったので移住を考えました。

Q現在の仕事について教えてください。

移住しようと検討していた時に、「今の仕事を続けたいな」と考えていました。ちょうどコロナの影響でリモートワークも一気に普及した時期でした。「パソコンとネットワークがあれば、どこでも今と同じ仕事できる」と会社と交渉をした結果、業務委託で続いています。ウェブサイトの運営や、カタログなどのデザインを担当しています。

Q仕事を变えずに、移住先でも仕事が出来ているという状態がすごいと思います。いかがですか？

移住した直後は、新しい土地、新しい人間関係など、メンタルの負担が大きくなります。自分のやってきた仕事をそのまま続けられるのは、やっぱり安心感があります。

Qどのようなきっかけでライターのお仕事をするようになったのですか？

移住して1年になるころ、こぶろ須賀川で「すかがわのおと」のまちなかライターを募集しているのを見て応募したのがきっかけです。子育て中のママでも働きやすいの



で、ライターとしてのスキルもつけたと思って始めました。

Q須賀川市には、子供が体験できるイベントもたくさんありますね。

須賀川市は市民活動が盛んだと思います。畑で農業を体験できるイベントがあったり、季節の行事ごとに制作体験などもあったりするので、子どもと一緒に楽しんでいます。子育て支援のサークルや団体は充実していると思います。子育て世代に向けたイベントを通して、街の文化、街を愛する気持ちが強まるので、素敵な街だなと感じています。

Q移住してよかったと思ったことはありましたか？

須賀川市の良さを一言で言えば「ほど良さ」なのかなと。自然もあって環境がよく、人や流れる時間がゆったりしていて住みやすい。一度住むと定住したくなるような場所だと感じます。病院や学校、買物できる場所なども揃っていて、子育てしやすい点が素晴らしいと感じています。

Q最後に、これから地方で暮らしたい、移住を考えている人に何かアドバイスがあれば。

無理して都会で仕事を頑張るとか、生まれた場所に無理に縛られるという価値観に縛られずに、「住みたいところややりたいことやる」という自分の気持ちを大切にすることですね。地方移住を考えている段階から、「移住してみたい」ということを、周りの人に発信していくと、情報も自然に集まってくると思います。移住後も自分から前に進んでいくことで、地域の人々とのつながりが生まれたり、キャリアにつながるチャンスがあったときに、すぐ手を挙げて参加していくことができますよ。

産前産後用品のレンタルや 子育てパパママに寄り添える 場所を創っていききたい。

名嘉村 まりこさん(田村市)

第29
ふくしま人



2018年に千葉県から田村市へ家族で移住しました。リユース(再利用)事業を行う傍ら、現在は自身の経験から辛い思いをする産後ママがいなくなるようにと、産後ケア事業を展開しています。

Q移住のきっかけを教えてください。

夫は沖縄県のうるま市という、海から4分ぐらいの、すごい田舎で、私も房総半島にある千葉県富津市の田舎で育ってきたので、「自然がたくさんある場所で子育てしたいね」って二人で話をしていました。私の父が田村市常葉町で会社を経営していて、会社を継ぐ人もいないし、それならばということで田村市に決めました。

Q移住する前は千葉県でどんな仕事をしていましたか？

東京秋葉原の大型家電量販店の中にある携帯電話販売会社の営業をしていて、イベントの企画・運営や携帯電話の加入促進等の仕事をしていました。土日でもフルで働いていて、夜10時に仕事が終わって、そこから飲みに行き、12時半の電車で帰ってとか、結構そんな感じでした。

Q現在の仕事について教えてください。

現在、出張買取をメインとしたリサイクルショップをやっています。倉庫2つを使って、買い取ってきたものを、メルカリとかヤフオクなどのオンラインショップで売る仕事をしています。また、お客様からの相談を受けているうちに、「片づけを手伝って」、「部屋の模様替えをしたいけど手伝って」とか、「模様替えのアイデアを教えてください」といった、女性が困っているところの手助けをするみたいな仕事が多くなっています。お客様の約9割は女性ですね。2018年の4月に移住して来て、2ヶ月後の6月に子供を出産し、2019年1月に開業して、現在は「ハッピークリーミーショップ」という名前です。

Q今後、店舗はどのように活用するのですか？

解体してコンテナショップを置く予定です。リサイクルショップをベースに「カフェ」と「民泊施設」を併設した施設にしようと考えています。宿泊するとか、拠点になる場

所がないのがネックだと感じていたので、そういう人たちが泊まれるように簡易宿泊場という感じでやれたらと考えています。

また、夜に居酒屋をやりたい人や土日にカレー屋さんをやりたい主婦の人とか、そういった人に借りていただいて、誰でもチャレンジができるような仕組みをつくって、街を活性化していきたいと思っています。

Q移住して良かったと思ったことは？

名前を知らない人でも「今日は暑いですね」とか、普通の会話ができるところは、何か「ほっと」しますね。あとは緑が多いところですね。自然がやっぱり好きで、千葉県に住んでいましたが田舎にいたので、土に触れたりとか、木に触れたりとか、すごくいいなと思います。保育園に行くまでの道中に、森があって川があって風力発電が見えたり、山もあってみたいな。



Qこれから地方で暮らしたい、移住を考える人に何かアドバイスは？

まずは、その地方に来てみないとその地域の良さとか不便なところとかがわからないと思います。まずは遊びに来て、そして良かったら、その後も何回も来てみて、そこで「良いな」と思ったら住んでみたらどうでしょうか。やっぱり、最初の一步を踏み出すのが結構難しいと思います。SNS等で現地の人と繋がりを作ってから行くというのもありですね。自分自身の中で行動することへのハードルをどれだけ下げることができるのかが大事だと思います。



今の街の風景を 記憶・記録に残し、伝えたい。

渡邊 伸二さん(小野町)

福島県小野町出身の渡邊さんは、2020年8月に小野町にUターン、JR磐越東線をテーマに鉄道関係の品々を展示する「東方文化堂」を開設している

Q移住のきっかけを教えてください。

私が社会人になった時代は定年退職が55歳でしたので、一応55歳までが一つの目標で、その後は全然違った好きなことをやりたいと若い頃から思っていました。2015年に磐越東線の小野新町駅100周年のイベントに、持っているグッズを提供して御協力させていただきました。

当時、茨城県内の常磐線の駅付近に住んでいたのですが、常磐線沿線で磐越東線のグッズを持っていたというのがないかと、これは持ち帰るべきだろう。

帰るんだったらやっぱりそれは、生まれ育った小野町だと。

ということで、Uターンを決めまして、57歳で思い切って会社を辞めて帰ってきました。

Q移住前の仕事、これまでの経緯を教えてください。

前半20年は、設計をやっていました。図面を書いてものをつくって。

後半20年は、どちらかというと調整役です。

お客さんとメーカーさんとの間を取り持つとか、そういう調整です。前半と後半では、相当違った仕事をしていました。

Q現在の仕事の東方文化堂とはどういったことをやっているのですか？

公式に言えば、古物商としての店の屋号です。

Q移住する際に不安だったことはありますか？

場所、不動産を探すのに苦労しました。小野町で物件を探そうとしても、見れば空き地や空き家がいっぱいあるのは分かるのですが、小野町はこの不動産に話をすればいいのかわからない。ツテを頼って同級生とか、あと町の

第30
ふくしま人



定住コーディネーターにお願いしました。

最初は借家で済まそうかと思ったんです。借家でおかつ、店舗があって住めてという。よい物件がなかなか見つからなくて、そのうちにここを紹介していただいて、駅のすぐそばだからちょうどいいじゃない。ということで思い切ってここを買わせてもらいました。

Q移住して良かったと思うことは？

皆さんに相当バックアップしていただけることがありがたいですね。地元の話を知りたいとすれば、皆さんが教えてくれますし、情報やグッズも持ってきてくれますし。Uターンは、精神的には相当楽ですね。もともとこの生まれです。よってここから話ができるっていうのは、恵まれているという気はしますね。

Q今後仕事とかプライベートでどんなことをしていきたいですか？

今年の4月から、ホームページで東方文化堂コレクションとして主に小野新町の歴史というテーマで情報発信しています。昔の写真と今の写真を比べるというようなことを始めました。今後も積極的に記録を残し発信することに軸足を移そうかなと思っています。

Qこれから地方で暮らしたいと考えている人に何かアドバイスは？

自分の経験が正しいと思って、その移った先で強要してはいけないと思います。要するに地元の人たちの考え、歴史、意見をまずは尊重することが大切です。また、できれば終の棲家とする覚悟を持ってほしいです。だめだったら、また引っ越せば良いという考え方ではなく、覚悟を決めてほしいと期待します。

活用しよう! 制度と施設/

すむ

移住地で、自分の城となる住まい。せっかく移住するなら、こだわりのお気に入り物件を見つけてのびのびと生活したいですね。事前の情報集めが何より重要な移住候補地での物件探し。ポイントを絞って効率的に探しましょう。

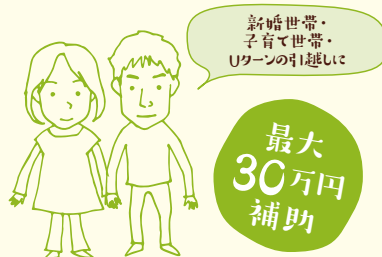


引っ越し補助

対応市町村
田村市 鏡石市 天栄町 石川町 玉川村
平田村 浅川町 古殿町 三春町 小野町

新婚世帯や子育て世帯、県外からのUターンする方を対象に引越をサポート!最大30万円を補助します!

※自治体によって要件等が異なりますので、引越先の自治体にお問合せください。



くらす

移住地での新しい暮らしでは、何かと不安を感じるものです。地域特有の習慣はもちろん、友達ができるか不安だったり、誰に相談したらいいかわからない事があると思いますが、各市町村には様々なコミュニティが用意されていますので、ご安心ください。



郡山市 はやまーゼ教室

新しく郡山市へ転入された女性を対象に、「郡山を知ってもらうこと」「仲間づくり」を目的とした教室を開催しています。

郡山市立中央公民館 TEL 024-934-1212



須賀川市 子育てサークル連絡協議会 (kurutto)

須賀川の地域みんなが、くるとつながって子育てができるように活動しています。

須賀川市こども課 TEL 0248-88-8114



はたらく

移住する際に住居を見つけることも大切ですが、自分のライフスタイルに合ったお仕事を見つけるのも大切です。これまでの経験を活かしたお仕事でも、初めて挑戦するお仕事でも、移住地でチャレンジする人をサポートする制度がたくさんあるので、ぜひご利用ください。



コワーキングスペース

コワーキングスペースとは、創業を目指す人や起業したばかりの人、そしてベテランの経営者などが気軽に集い、勉強会や情報交換会、イベントなどを開催する場所です。

	名称	問い合わせ先	TEL・Mail	料金等
郡山市	co-ba koriyama	一般社団法人 グロウイングクラウド	info.coba.koriyama@gmail.com	月額会員8,800円～ 1Day利用 1,100円
郡山市	コワーキングスペース コオリヤマ	NPO法人 アイカラー福島	024-953-8057	月額会員12,000円
郡山市	福島コトひらく	NPO法人コースター	024-983-1157	月額会員10,000円～ 1Day利用 1,000円
郡山市	エフコム ドリーム・ラボ 上伊豆島	(株)エフコム	024-955-6041	パーテーションデスク10,000円/月(税込) テーブル無料(2023年3月31日まで)
郡山市	オフィス余白	オフィス余白	090-5847-4279	5,500円(月額) 1,500円(日額)
須賀川市	palette	(株)テダソチマ	0248-94-5661	40,000円～(月額)
田村市	テラス石森	一般社団法人Switch	0247-61-7575	月額利用10,000円 1Day利用1,000円
玉川村	コワーキングスペース たまかわ	コワーキングスペース たまかわ	0247-57-2104	月額利用3,000円 1Day利用300円



co-ba koriyama



コワーキングスペースたまかわ

国 新規就農者育成総合対策事業

次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、就農前の研修を後押しする資金(就農準備資金/2年以内)および就農直後の経営確立を支援する資金(経営開始資金/3年以内)を交付します。



各市町村の補助制度一覧



(令和4年11月1日現在)

市町村名	問い合わせ先	電話番号	しごと支援				住まい支援				子育て支援			体験	
			コワーキング スペース	創業支援	空き店舗 利用補助	奨学金 補助	空き家 バンク	引越し 補助	住宅 取得補助	空き家 改修補助	出産 祝い金	医療費 助成	保育料 支援	お試し 住宅	就農支援
郡山市	政策開発課	024-924-2021	○	○			○					○	○		○
須賀川市	企画政策課	0248-88-9111	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
田村市	企画調整課	0247-61-7615	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
鏡石町	総務課	0248-62-2117		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
天栄村	企画政策課	0248-82-2333				○	○	○	○	○	○	○	○		○
石川町	企画商工課	0247-26-9111					○	○	○		○	○	○		○
玉川村	企画政策課	0247-57-4628	○				○	○	○		○	○	○	○	○
平田村	企画商工課	0247-55-3115					○	○	○	○	○	○	○		○
浅川町	企画商工課	0247-36-2815					○	○		○	○	○	○		○
古殿町	産業振興課	0247-53-4620				○		○	○		○	○	○		
三春町	企画政策課	0247-62-1122			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小野町	企画政策課	0247-72-6939		○			○	○	○	○	○	○	○		○

※詳しい内容、条件等は各市町村へお問い合わせください。

※医療費助成は、県内全域で実施(18歳以下医療費無料)

※空き家改修補助は、県内全域で実施(「住んでふくしま」空き家対策総合支援事業)。

※住宅取得補助は、市町村の独自補助があり、県による上乗せ補助があります(来て ふくしま 住宅取得支援事業)。



現地案内について

プチ移住
してみたい!

お試し住宅



田村市 お試しチャレンジハウス
料金／1日300円
滞在期間／2日～1ヶ月。
問い合わせ先／
田村市企画調整課 TEL 0247-61-7615



福島県

来てふくしま体験住宅提供事業

若者等を対象に福島体験のための滞在住宅として
県営住宅の空き住戸を一定期間提供します。
料金／月額10,000円(駐車場・共益費等は別途負担)
滞在期間／3ヶ月(最長1年まで延長可)
募集期間／令和4年4月1日(金)～令和5年3月31日(金)
15戸程度(※先着順で、予算枠に達した時点で募集は終了です。)
要件／SNSで移住や福島の魅力について情報発信を
行うこと。団地の自治会活動へ参加すること。等
問い合わせ先／
福島県県中建設事務所 建築住宅課
TEL 024-935-1462



まずは、ふくしまに
行ってみたい!

交通費補助



福島県
対象者／県外在住の方で福島県への移住を希望する方
補助額／定額(現住所により異なります)
※東京都の場合は8,000円

物件とか仕事とか地域のこととか、
いろいろ知りたいけど
どこに行けばいいかわからない

オーダーメイド型 現地案内

料金／無料(現地までの交通費、食事代、宿泊費は自己負担)
日程／ご希望の日程・内容を聞き取って設定いたします
お問い合わせ／福島県 県中地方振興局 024-935-1323

ふくしまど真ん中 チャレンジライフ

地方就農して
地域農業の
担い手になる!

ゲストハウスを
経営して
スローライフ!

地域の一員として
地域おこしをしたい!

ふくしまに移住を検討しているあなたに
「ふくしまでの新しい暮らし方・働き方」を提案します!



今日は、都会。



明日は、田舎。

ふくしまでの挑戦に向けて、まずは体験してみませんか?
詳しくは、福島県県中地方振興局へお問い合わせください。

ご相談はこちら

都内での
ご相談は

有楽町にある「福が満開、ふくしま暮らし情報センター」にて相談員が常駐しておりますので、移住に向けた地域情報の収集や、お仕事・お住まいに関する悩みを相談したい方、まずはお気軽にご訪問ください!

福が満開、ふくしま暮らし情報センター
(千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階
NPO法人ふるさと回帰支援センター内)
TEL 03-6551-2989
E-mail: fukushima@furusatokaiki.net

現地の
ご案内は

県中地方振興局でも、様々なテーマでのセミナーの開催や、実際に現地案内をしております。お気軽にお問い合わせください!

福島県県中地方振興局
企画商工部 地域づくり・商工労政課
TEL 024-935-1323
E-mail: kenchu.kikakushoukou@pref.fukushima.lg.jp
https://fukushima-ijyu.com